

脚本：『ゴージャスお宝鑑定家2』

登場人物

- ・ 剛田（こうだ）：剛田質店の店主。ゴージャスを追求する性格で、振る舞いが常に大げさ。口癖は「ゴージャス！」
- ・ 白金（しろがね）：見習い鑑定士。剛田の奇行に振り回される常識人ポジション。
- ・ 老紳士：依頼人。アクアマリンの竹刀を持ち込む。
- ・ 宝石商：剛田の知人。気難しいが美しいものには目がない。
- ・ 剣道家：実直で厳格。剛田の価値観に困惑する。

シーン1：剛田質店の日常（15分）

【豪華なシャンデリアと大理石のカウンターが印象的な店内。白金がモップを手に掃除をしている。ため息をつきながら愚痴をこぼす。】

白金

（ぼやきながら）こんな派手な店構えにしたところで、お客さんなんてほとんど来ないんだよな……。剛田さんの「ゴージャス品しか扱わない」ってルール、厳しすぎるってば。

【モップを動かす音が響く中、奥から剛田が登場。手には金箔が散りばめられたうちわを持ち、優雅に扇いでいる。】

剛田

（微笑みながら）白金くん、掃除もただの作業じゃないのよ。ゴージャスな空間を保つためには、心まで磨かなくてはね！

白金

（苦笑い）心の掃除なんて聞いたことないですよ……。

剛田

（手を広げて）この店にゴージャスでないものは存在しない！それを実感するには、まず自分がゴージャスであるべきなの！

白金

（皮肉っぽく）へえ、じゃあ僕がもっとゴージャスになったらお客さんも来ますかね？

剛田

（真剣な表情で）もちろんよ。白金くんが輝けば、店も輝くわ！

【白金がさらに呆れた表情を見せたところ
で、店のドアがカラリカラリと鳴る。】

白金

（驚いて）えっ、客だ！何ヶ月ぶりだろ

……！！？

【老紳士がゆっくりと入ってくる。スーツ姿が
きょちりしており、手には重そうな布包みを
抱えている。】

老紳士

失礼いたします。こちらで品物の鑑定をお願い
したいのですが……。

白金

（慌てて対応）は、はい！どんなものでも……
いや、ゴージャスなものなら！

【老紳士が布包みをカウンターに置き、慎重
に広げる。中から、輝く青色の竹刀が現れ
る。】

白金

（目を見開いて）えっ、竹刀！？しかもこれ
……アクアマリンでできてる！？

【剛田が竹刀を見るなり、目を輝かせる。】

剛田

ゴージャス……！

白金

いやいやいや、何これ！竹刀って普通木で作るもんですよね！？こんなもので剣道したら、確実に割れますって！

老紳士

（穏やかに）これは祖父が大事にしていた品でしてね。アクアマリンの輝きを好み、特注で作らせたそうです。剣道の稽古というより、家宝として保管していたものですな。

剛田

（竹刀を手に取り、興奮気味に）これこそ究極の融合！戦士の力強さと宝石の優雅さが見事に共存しているわ！

白金

（呆れ）力強さも優雅さも、割れたら台無しですよ……。

剛田

（竹刀を掲げながら熱弁）アクアマリンの石
言葉は「幸福」「冷静」「勇氣」。剣道の精神
をまさに体现しているではないか！

白金

剣道ってそんな宝石で表現するものでしたっ
け……？

シーン2：竹刀の価値を巡る激論（20分）

剛田が竹刀を持ちながら店内を歩き、石

言葉についておどろに熱く語る。白金がその都

度ツツコミを入れる。」

剛田

幸福——この竹刀を持つ者は、剣道を通じて
至福の境地に至る。冷静——戦いの中でも
己を見失わない。勇氣——すべてを恐れず前
に進む心！

白金

(呆れながら)それ、竹刀じゃなくてもアクア
マリンの指輪でいいですよね。

剛田

(振り返って)違うのよ白金くん。指輪では「
」の力強さは生まれません。竹刀という形があっ
てこそ、この石は生きるの！

白金

(ため息)じゃあ、せっかくだから試してみまし
ようかね。本当に使えるのかどうか！

【白金が竹刀を受け取り、素振りを始め

る。】

白金

(慎重に)えいっ……と！

竹刀が「キッ」の音を立てる。白金が手を

【。】

白金

(絶叫)ほら！割れそうじゃないですか！

剛田

(慌てて竹刀を奪い返す)やめなさい！壊れたらこのゴージャスが永遠に失われるわ！

白金

(冷静に)壊れなくても、もう充分失われてる気がしますけどね……。

【剛田が竹刀を持ち直し、目を閉じる。】

剛田

(静かに)この竹刀の価値を証明するためには、旅に出る必要があるわね……。

白金

(驚き)え、旅！？どこに行くんですか！？

剛田

(満面の笑みで)決まっているじゃない。価値を知る者たちに会いに行くのよ！

白金

(頭を抱える) また振り回されるのか……。

シーン3: 価値を探る旅(25分)

場所: 街中の宝石店

【豪華な装飾が施された宝石店の店内。剛田と白金が竹刀を手に訪れる。宝石商が力ウンター越しに迎える。彼はスーツ姿で、鼻眼鏡をかけた厳格そうな人物。】

宝石商

(ゆっくりと剛田たちを見る)……剛田さん、
いったい今日は何を持ってきたんです？まさか
その手に持っているのが……？

剛田

(竹刀を高く掲げ)これよ！アクアマリンで
きた竹刀！

宝石商

(絶句し、眼鏡を外す)竹刀!?

白金

(小声で)ですよ、普通そういう反応しますよね……。

剛田

(竹刀を見せつけながら)これはただの竹刀ではありません!石言葉が示すように、幸福と冷静、勇気を体現したゴージャスアイテム!これを評価できるのはあなたしかいないわ!

宝石商

(眉をひそめて)いや、待ってください。竹刀って武具ですよ?宝石で作る意味が……。

剛田

(微笑みながら)宝石の美しさに、剣道力の強さが宿るのよ。このコンビネーションこそ芸術の極み!あなたなら理解できるはずよ。

白金

(半ば呆れながら) いやいや、宝石商さんに押し付けても……。

剛田が宝石商に竹刀を渡す。宝石商は仕方なく手に取り、じっくり観察する。【

宝石商

(竹刀を見つめながら) ……確かに、アクアマリンのカットと輝きは素晴らしい。これほどの質の石はなかなかお目にかかれませんが、武具にするには脆すぎます。

剛田

(自信たつぷりに) そこが美学よ！ あえて用途に反する素材で作ることで、新たな価値を創造しているの！

宝石商

(ため息) それをゴージャスと呼ぶのか、単なる無謀と呼ぶのか……。

白金

(真顔で)後者に一票です。

【宝石商が竹刀を丁寧に返し、剛田にアムバ
イスをする。】

宝石商

もしこの竹刀の価値を本当に証明したいのなら、剣道家に見せてみてはどうですか？彼らがこの竹刀にどんな意味を見出すか……興味がありますね。

剛田

(頷きながら)そうね、確かに剣道家の目で見てもらうのも大事！ありがとう、助かったわ！

白金

(皮肉っぽく)剣道家がこれをどう思うか、なんとなく想像つきますけどね……。

場所：剣道場

【剣道場の広い畳の間。剛田と白金が竹刀を持ち込み、道場主の剣道家に挨拶をしている。剣道家は中年の男性で、厳格そうな表情をしている。】

剣道家

（腕を組んで）剛田さん、竹刀を見せてほしいと連絡を受けましたが……まさか宝石製の竹刀を持つてくるとは思いませんでしたよ。

白金

（申し訳なさそうに）すみません、本当に変なものを持ち込んで……。

【剛田が胸を張って竹刀を差し出す。剣道家は少し戸惑いながら竹刀を受け取る。】

剛田

見て、この輝き！そして、この重み！剣道の新しい未来を開く一品よ！

剣道家

(冷静に観察しながら)……確かに美しいが、実用性はどうなのでしょう？竹刀は打ち合っつてこそ意味があります。

白金

(ボソツと)実用性ゼロです。絶対に割れません。

【剣道家が竹刀を手に取り、少し素振りを試みる。しかし、すぐに竹刀から「ドキッ」と嫌な音がする。】

剣道家

(驚いて止まる)……これは。少し強く振っただけで壊れそうだ。

剛田

(慌てて)やめてください！壊したら価値が台無しに！

剣道家

（苦笑しながら竹刀を返す）剛田さん、確かに美しい竹刀ですが、剣道具としては使い物になりませんよ。ですが……。

剛田

（期待を込めて）ですが？

剣道家

（微笑みながら）これを飾り物として道場に置くことで、剣道の精神を象徴する存在になり得るかもしれません。美しさを通じて、武の道の奥深さを伝える道具としてなら価値があるでしょう。

白金

（皮肉っぽく）つまり「飾り物としてはアリ」ってことですね。

シーン4：鑑定の結論（15分）

再び剛田質店に戻る。剛田が竹刀を見つめ、老紳士に結果を報告する。【

剛田

（感慨深げに）この竹刀は、使うためのものではないわ。美しさと剣道の精神を融合させた象徴……それこそがこの竹刀の真の価値。

老紳士

（微笑みながら）剛田さん、あなたに託してよかった。この竹刀がただの家宝以上の意味を持つことが分かって、安心しましたよ。

白金

（ホッとしながら）本当にそう思うならいいんですけどね……。

剛田

（大声で）ゴージャス！

エピソード：日常への帰還（5分）

剛田質店のカウンター。白金がまた掃除をしている。剛田が竹刀を店内の特別展示スペースに置き、満足そうに眺めている。】

白金

（ぼやきながら）結局、また妙なゴージャス品が一つ増えただけだよなあ……。

剛田

（微笑みながら）白金くん、ゴージャスなものを大切にしている心。それが人を豊かにするのよ。

白金

（ため息）じゃあ、次はもう少し壊れにくいものにして下さいよ……。

【二人のやり取りを背景に、カメラが竹刀をクローズアップして幕を閉じてみる。】

終わり

尺割一覧

シーン1：剛田質店の日常（15分）

- 店の雰囲気を紹介しつつ、剛田と白金のキャラクターを掘り下げる。
- 老紳士がアクアマリンの竹刀を持ち込む流れを描写。
- 剛田が竹刀を手に取り「ゴージャス！」と絶賛する。
- 石言葉の話題や白金のツツコミでコメディー要素を盛り込む。

シーン2：竹刀の価値を巡る激論（20分）

- 剛田が石言葉を交えて竹刀の価値を熱弁。
- 白金が素振りを試みて竹刀が「ピキッ」と音を立てる場面で笑いを誘う。
- 老紳士との会話を通じて竹刀の背景を掘り下げ、物語の核心に迫る。

シーン3：価値を探る旅（25分）

1. 宝石商とのやり取り(12分)

- 宝石商が竹刀を分析し、その美しさを認めつつ実用性を否定。
- 剛田が芸術性や象徴的価値を熱弁。
- 宝石商が「剣道家に見せてみては」と提案。

2. 剣道場での議論(13分)

- 剣道家が竹刀を持ち、「ピキッ」と音がする場面で笑いを追加。
- 剛田と剣道家が美と武の融合について話し合う。
- 剣道家が「道場の象徴としてなら価値がある」と結論付ける。

シーン4: 鑑定の結論(15分)

- ・ 剛田と白金が質店に戻り、老紳士に鑑定結果を伝える。
- ・ 老紳士が竹刀の新しい価値に満足する場面を描写。

- 白金の皮肉と剛田の「ゴージャス！」で
場面を締める。

エピソード：日常への帰還（5分）

- 再び日常の剛田質店。白金が掃除を
しながら愚痴をこぼす。
- 竹刀を飾り、剛田が満足そうに眺める
場面で物語を締めくくる。

合計

- シーン 1：15分
- シーン 2：20分
- シーン 3：25分
- シーン 4：15分
- エピソード：5分

合計：80分